

# 組織目標評価報告書（平成27年度）

部局名:

スポーツ教育センター

部局長名:

許 南浩

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
<b>①教育領域</b>	<b>自己評価</b>
<b>①-1 目標</b> ◇教育の実施体制: ・健康・スポーツ科学部会の授業に関するFDを行う。 ・岡山県教育庁保健体育課、県下の高校と連携し、支えるスポーツ演習の拡充をはかる。  ◇教育方法・内容 ・60分・クォーター制に向けた「するスポーツ演習」の再構築とともに、e-Learning教材を再検討する。  ◇教育の成果 ・e-Learning教材の改訂とともに学習効果を調査し、授業改善をはかる。 ・支えるスポーツ演習の改善のため、教育・教材、システムについて関係者と検討会を設ける。	◇健康・スポーツ科学部会のFDは8月に60分・4学期制カリキュラムの現状説明と検討を行い、3月には授業遂行上の変更点・問題点を話し合った。  ◇するスポーツ演習におけるe-Learningを活用した運動プログラム実践についてアンケート調査を行い、身体活動量の増加とストレッチング実施率の向上が認められ、e-Learningの有効性が検証できた。 ◇支えるスポーツ演習(実践型授業:高校部活指導の実践)は岡山県保健体育課と5回協議し、学生および外部指導者(岡山県の事業参加者)等へのアンケートを行い、次年度以降実習校を徐々に増やすことで合意した。またその際、履修学生と受入校との効果的な打合せができるよう、打合せ事項をまとめた。 ◇e-Learning教材は身体活動量調査の結果も受け、また60分・4学期制をも考慮した改訂を行った。改訂は、1)運動プログラム実践の必修化、2)リフレクションノートのe-Learning教材との一体化、3)4学期に合わせた4コースの設置を行った。
<b>①-2 目標とする(重要視する)客観的指標</b> ・非常勤講師を含めた健康・スポーツ科学担当者のFD活動を年2回行う。 ・学生によるe-Learning教材の評価と身体活動量調査(評価)を行う。	
<b>②研究領域</b>	<b>自己評価</b>
<b>②-1 目標</b> ◇研究水準・成果  ・熱中症対策に関わる環境測定の継続と学内および地域での熱中症予防研究を推進する。 ・国内外での学会等において研究発表を行う。  ◇研究実施体制	◇熱中症対策として津島・鹿田キャンパスの継続的な環境測定が可能となり、ホームページでそれらの値を閲覧できるようになった。また岡山市保健体育課と協働で地域の環境測定を継続した。 ◇岡山県保健体育課と協働で中・高校部活動への外部指導者派遣に関する調査を行い、推進のためのアドバイスを行った。地域企業との共同研究(ウォーキングシューズ開発:研究費40万円)は歩行動作の基本的な測定を行い、シューズ開発に役立つ知見が得られた。 ◇研究論文を5件発表した。 ◇全国学会における教育講演1件、一般発表11件を行った。国際学会発表は4件であった。研究会では12件発表した。
<b>②-2 目標とする(重要視する)客観的指標</b> ・研究論文を1件以上発表する。 ・全国学会および研究会における研究発表を4件以上行う。	
<b>③社会貢献(診療を含む)領域</b>	<b>自己評価</b>
<b>③-1 目標</b> ・小学・中学・高校において、白桃ダンスの普及をはかる。 ・岡山市保健所と協働で「OKAYAMA!市民体操」の普及とともにスポーツボランティア養成を推進する。 ・公開講座であるスポーツ講座を推進する。	◇白桃ダンスの普及のため、学生約200名に実践指導を3グループ×5回(計15回)、学校での白桃ダンス講習会5回を行なった。また指導できるよう養成した学生たちが小・中学生チームを継続指導し、小・中学生チームがテレビ出演をはたした。 ◇OKAYAMA!市民体操は小学校等での指導講習会を5回行った。また岡山市主催の「OKAYAMA!市民体操甲子園」の企画アドバイスと審査委員・総評を行い、体操の普及発展に貢献した。 ◇スポーツ講座は15回開催し、そのDVDの貸出件数 27件であった。
<b>③-2 目標とする(重要視する)客観的指標</b> ・白桃ダンスの普及・指導活動を年10回以上行う。 ・OKAYAMA!市民体操普及・講習会をスポーツボランティア養成とともに5件程度行う。 ・スポーツ講座を15回開催し、講座DVDの貸し出しを行う。	
<b>④センター業務</b>	<b>自己評価</b>
<b>④-1 目標</b> ・課外活動活動への支援のため、各種講習会を拡充する。 ・学内外からのスポーツ相談(メール相談を含む)を推進する。	◇講習会は5種類(熱中症予防:参加者1396人、応急処置20人、AED33人、ラグビー115人、ラクロス 55人)開催し、いずれも良好な評価を得た。 ◇熱中症予防講習会は18回、応急処置・AED講習会は計2回、ラグビークリニック1回、ラクロスクリニック1回を開催した。  ◇スポーツ相談はメール相談が9件あり、個別のトレーニング相談・指導は6件、ポート部への集団トレーニング指導3回を行った。また、陸上競技部、アメリカンフットボール部、水泳部には栄養調査・指導(全体講義と個別指導)を各部2回、計6回行った。
<b>④-2 目標とする(重要視する)客観的指標</b> ・全ての講習会を評価アンケートを用いて実施する。 ・熱中症予防講習会15回以上、応急処置・AED講習会を2回以上行う。 ・スポーツ相談への対応および指導を10件以上行う。	
<b>【総括記述欄】</b>	
※管理・運営面についても検証した上で、今年度の達成状況を総括し、次年度に向けた改善点等を記載してください。管理・運営面は特別な問題もなく、教育学系、医学系の先生方の協力もありスムーズにセンター運営が推進できた。教育領域では60分・4学期制への対応ができ、教育効果の検証と授業改善ができた。e-Learningの効果検証は継続して行い、PDCAを回して行く予定である。研究領域では予定以上に推進でき、多くの研究成果を発表できた。社会貢献領域ではダンスおよび体操の普及活動が学生と共に推進できた。OKAYAMA!市民体操甲子園はマスコミにも取り上げられ、今後も続ける方向で検討中である。センター業務では予定通りに実施できた。次年度より、スポーツ支援室と名称変更となるが、これまでの取組を継続して推進していく予定である。	